

作物名：ねぎ

病害虫名：ネギアザミウマ（学名：*Thrips tabaci*）



ネギアザミウマ被害痕

1 被害の特徴とポイント

葉への吸汁害

- ・吸汁された部分はかすり状の白斑になる。
- ・葉ネギなどは被害によって商品価値が下がる。

2 発生生態及び発生好適条件

- ・高温，乾燥条件が増殖に好適であり，4～6月，9～11月に多発する。
- ・成虫，幼虫は葉を吸汁して被害をもたらす。蛹になる際は，根際部や土中へ移動する。
- ・幼虫の体色は黄白色，成虫（雌）は体長が約1.3mm，黄色または褐色を呈する。雄の発生はまれであるため，単為生殖をする。
- ・気温上昇に伴い，1世代にかかる日数が短くなる。発育期間は20℃で約20日，25℃で約16日。成虫の生存期間は約21～47日。根際部で越冬し，早春から作物に寄生する。
- ・タマネギ，ニンニクなどのユリ科およびアブラナ科など寄主範囲が広く，トルコギキョウにも寄生しIYSV（アイリスイエロースポットウイルス）を媒介する。

3 防除方法

- ・寄生植物になるほ場周辺の雑草管理を徹底する。
- ・定植時の粒剤施用，生育中は早期防除に心がける。

4 出典

- (1)参考文献：みやぎの野菜指導指針（宮城県）
病害虫防除・資材編4（農文協）
日本農業害虫大事典（全国農村教育協会）
- (2)写真：宮城県病害虫防除所撮影